

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4093100172		
法人名	社会福祉法人 創生会		
事業所名	グループホーム イコロの里		
所在地	福岡県春日市平田台1丁目138番2号 (電話) 092-595-8681		
自己評価作成日	令和 5 年 9 月 10 日	評価結果確定日	令和 5 年 12 月 7 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

敷地内には広大な庭園があり、季節に合わせた花を觀賞しながら、いつでも気軽に散歩ができる環境になっています。庭園内の畑には様々な野菜が植えられており、入居者様と共に旬の野菜を収穫し日々の食材に使用しています。  
更に、年間を通じて様々な行事（夏祭り、敬老会、忘年会など）を開催し、ご家族にも参加していただくことで、入所者様や職員との親睦を深め信頼関係を築いています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	令和 5 年 10 月 17 日	

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の敷地には庭園、農園があり、四季を感じたり、作物を収穫し食を楽しんだりすることができる。庭園と農園の間には遊歩道があり、地域住民が散歩することもあり、開放的である。地域密着型定例部会に参加し、自治会や行政職員と地域課題を共有し、イベント等で交流し、地域の一員としての事業所運営に取り組んでいる。職員からの発信で働きやすい環境作りも実践しており、全職員で全利用者を支えるというチームワークで支援している。事業所内研修は年間計画され、研修資料や議事録、参加報告書が丁寧に分かりやすく管理されている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛のある里」「笑顔のたえない里」「安らぎのある里」のホームの理念を、毎朝の申し送り時に読み上げ、理念の共有を図り、実践につなげている。	理念にある「里」は、地域の一員として住み慣れた生活を目指すことを表している。職員は朝礼で理念を唱和している。地域や家族、友人とのつながりを大切に支援できるように、感染対策を継続しつつ、面会や外出、外泊もできるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加し、交流を図っています。又、敷地を移動販売の会場として使ってもらう計画をしている。	地域行事や地域活動が再開すれば今後も参加予定である。利用者への傾聴ボランティア、音楽や踊りの慰問も今後募集する。中学校の職場体験や、小学生との七夕・クリスマスの交流も継続して受け入れている。自治会と社会福祉協議会と協力し、地域住民が買い物難民にならないよう事業所敷地内に移動販売車を呼ぶ予定で、地域とのつながり、交流が日常的にできることを目指している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、認知症に関する研修の報告をすることで、ご家族や地域の方々に向けて発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、入居者状況や取り組みの報告を行い、そこで出たご意見などは、その後のサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、対面で開催している。会議では利用者の状況や事故報告、スタッフ紹介、活動予定と報告、生活の様子を写真付で報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市役所担当者にも参加いただき、当ホームの現状をお伝えしている。また、なにかあれば、都度問い合わせるようにしている。	行政とは日頃から制度的な相談、ケアプランや事故報告に関して連携を図っている。それ以外にも、月1回のペースで地域密着型定例部会に参加し、行政や社会福祉協議会、他の事業所と地域のイベント開催や就職相談、制度に関すること等意見交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部研修やスタッフミーティングなどで職員間で理解を深め、施錠を含めた身体拘束をしないケアに取り組んでいる。但し、防犯上の観点から、夜間に限って玄関の施錠を行っている。	法人として身体拘束廃止委員会がある。事業所内で毎月開催するミーティングで、身体拘束や高齢者虐待について話し合い、具体的に不適切なケアがないか確認している。認知症高齢者等事前登録制度（見守りオレンジシール）も活用し、行方不明者の早期発見、保護ができるよう取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する内部研修やスタッフミーティングで理解を深めるとともに、日々の入居者の状況をしっかりと観察し異変が見過ごされないように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて成年後見人制度などの権利擁護制度の理解を深めている。ご家族などから要望があれば、それらを活用できるように支援している。	管理者は権利擁護について契約時に説明している。玄関には制度に関するパンフレットを準備し、いつでも問い合わせに対応できるようにしている。職員は成年後見制度について研修会を開催し、制度の概要や手続きなど一連の流れ、権利擁護支援チームとして支えられるよう学習している。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解除などの際にはご家族などに疑問や質問がないかを尋ね、それらに対してしっかりと納得していただけるように説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の意見や要望を運営推進会議などで、管理者や職員に表せるような機会を設けている。また外部機関の紹介を行っている。必要に応じてその後の対応に反映させている。	職員は日頃から利用者や家族へ生活に対する意向を確認し、楽しい生活が過ごせるよう支援に努めている。利用者の食べたい物を聞き取り、弁当のメニューに加えたり、食べたい果物をイベントとして提供する等、楽しみが増えるような提供方法を考えて実践している。家族からは面会についての要望に関して、感染対策を講じながら実施したり、外出や外泊もできるようにしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員ミーティングを開催し、職員の意見や提案を聞く場を設けている。また必要に応じてその後の対応に反映させている。	職員はスタッフミーティングで人事、利用者情報、食事、行事、身体拘束、高齢者虐待防止について意見を出し合い、スムーズな運営につなげている。職員の業務の流れに対して、勤務時間と休憩時間、記録の時間や量を調整できるか話し合い、利用者の生活に影響が出ないような時間の割り振りを実践に繋げている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の日々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境や条件の整備に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用の際、性別や年齢を理由に対象から排除していない。また、働いている職員に対しても、その能力を活かし社会参加や自己実現の権利が保証されるように配慮している。	職員が受講したい研修や資格取得に対して、意欲的に自己研鑽できるように、事業所としてシフト調整や受講料の補助等、支援している。働きやすい環境を作るために、休憩時間の改善も行っている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修の中で、職員に対し人権教育や啓発活動に取り組んでいる。	人権に関する研修は年間計画を通して毎年実施している。16種類の人権問題のテーマを取り上げ、幅広く学習している。研修受講後は報告書を作成し、参加できなかった職員は研修資料を回覧して学習している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修にて介護技術向上を図っている。また、日々の業務の中で介助方法の指導を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、地域密着型事業所春日支部会に参加し、同業者との交流を図り、春日市全体のサービスの質の向上する取り組みを行っている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人から困っている事や要望などを聞き取り、ご本人が安心して過ごしていただくための関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族から困っている事や要望をきちんと聞けるように関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族のニーズを的確に把握し、必要な支援を見極めるように努めている。またその可能性を踏まえ他のサービス利用も検討している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方向的に介助する立場ではなく、しっかりと思いを傾聴し、寄り添い、ともに行動している。そうすることで一方通行にならぬよう気を配っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には日ごろから入居者様の状況をお伝えし、ご家族に協力していただけることを相談し、職員とともにご本人を支えていただくようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけでなく、知人・友人の面会等積極的に受け入れて、関係が途切れないように支援している。	職員は利用者の生活歴や嗜好等のケアにつながることをフェイスシート等で把握している。利用後に得た情報も全職員で情報共有している。外出時には家族の協力を得ながら、友人との面会や墓参り、理美容、外食等、慣れ親しんだ生活環境、生活空間を支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個人の性格を把握し、入居者様同士が関わりあえるよう職員が橋渡しとなり支援するよう努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じてご本人やご家族の経過をフォローし相談や支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各入居者様の担当職員を中心に、ご本人やご家族からの要望や意向をうかがえるよう努めている。	全職員で2ユニットを担当する仕組みなので、伝達帳を通して、職員間で情報共有を行っている。裁縫が好きな人や花の世話が好きな人、神棚を大切にしている人等、利用者の望む暮らしを続けられるよう努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面談を行い、それまでの生活歴や生活環境、これまでのサービス利用経過等を把握するよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルサインや排尿・排泄・食事・睡眠等のチェックはもとより、会話を通じて感情にも気を配り、心身の変化を見逃さないようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人のケアの課題やあり方等、ご本人・ご家族・担当者を交えて意見を出し合い、それらを反映させた介護計画を作成している。	全職員は利用者の日々の様子をケアプラン実施記録に書き込んでいる。その他、ケアマネジャーは口頭で聴き取りしたものをモニタリングとしてまとめている。利用者や家族、医師等の意見をまとめて担当者会議で協議し、次期ケアプランとして作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践・結果、気づき等を個人記録に記載し、職員間で情報を共有するとともに、その後の実践や介護計画の見直しに活かすようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況やニーズに応じて、柔軟に支援できるように取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、ご本人が安全で豊かな生活ができるように支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医より月2回の往診を受けている。また、入居者様に体調の変化があればかかりつけ医に相談し、必要があれば受診を行っている。	今までのかかりつけ医や希望する医療機関での受診を支援している。受診の際は、家族と受診先で待ち合わせたり、事業所から一緒に出かけたり、車いす利用者の場合はリフトカーを手配する等、個別の事情に合わせて支援している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日々の関りの中で入居者様の状況や変化を職場内の看護師に伝え、受診や看護の支援を行えるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院した際には、定期的にご本人の状態を確認し、退院に向け病院関係者と連絡を取るようになっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日ごろから入居者様の状態をご家族にお知らせし、重度化した際、事業所でどこまでできるかをお伝えし、その後をどうするか話し合う場を設けている。	重度化や終末期のあり方について、事業所の方針があり、明文化している。家族等の意向を大切にしながら、医師や職員等を含めて全員で方針を共有している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員の資格を持つ職員を中心に、職員が緊急時に対応できるように研修を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練を行うことで、災害時入居者様が避難できるようにしている。また地域と協力できるように公民館に連絡が取れるようにしている。	事業所は高台にあり、水害のリスクは低い ため、火災を想定した避難訓練や通報訓練等を行っている。避難訓練については、運営推進会議で案内している。非常用食料や備品は、事業所内に保管している。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりが人生の先輩であることを意識し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。	「職員倫理・プライバシー保護規定に基づく行動指針」により、職員は基本的な教育を受け、更にプライバシー保護の研修により、介護現場で日々働く中でのプライバシー保護について学んでいる。職員の言動で気になる所がある際は、管理者はその場で注意している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いをきちんと傾聴し、入居者様のペースに合わせてご本人が自己決定できるように働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースを尊重し、なるべくご本人の希望される過ごし方で穏やかに過ごしていただけるように支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や口腔ケア時に洗面台の鏡を見ながら整容していただいたり、必要に応じて職員が髪型を整えたりしている。入浴時は着替えを入居者様と一緒に選んだりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の状態にあわせ、食事のつぎ分けや調理補助、テーブル拭きお盆拭きなど手伝っていただいている。検食をする際は入居者様と相席にて一緒に食事をしている。	週4日は夕食を事業所で作っており、食事担当職員が利用者と一緒に献立を考えている。中庭に菜園があり、収穫したものを献立に採り入れている。湯飲みは利用者の物を使用している。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を記録し入居者様の健康状態を把握したり、水分摂取の少ない方には個別に摂取していただくなど工夫している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様の能力に合わせた介助方法で口腔ケアを行っている。 必要に応じて、職員が磨き残しがないかの確認を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人のペースに合わせて排泄の声掛けや誘導を行っており、失禁を減らし、トイレでの排泄に努めている。	各ユニットにトイレが3ヶ所ある。トイレのドアは引き戸で、照明はセンサー仕様となっている。職員は、排泄間隔をみての声かけや、利用者一人ひとりの排泄サインをみて声をかけ、一人ひとりに応じた支援を行っている。利用者の半数ほどはトイレ内での介助を必要としており、トイレで排泄する生活を続けられるよう支援している。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、水分補給や日々の運動を促すとともに、ヨーグルト等整腸作用のある食べ物を提供している。 便秘時はかかりつけ医処方の便秘薬の服用で対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	1人1人の状態に合わせて入浴介助を行っている。時間は午前・午後と希望にそって、なるべく入浴の時間を楽しんでいただけるよう配慮している。	お風呂は毎日湧かしており、利用者は希望に応じ入浴できる。実際に毎日入浴している利用者もいる。入浴時間は特に設定せず、利用者が入りたい時に入ることができる。入浴中は利用者と職員が会話したり、好みの音楽を聴く等、利用者がゆっくり楽しく過ごす時間という認識をもって、職員は支援にあたっている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活リズムを尊重し、それぞれの過ごし方で日中過ごしていただいている。夜間は安心して眠っていただけるよう、環境整備や支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が入居者様の服用している薬について理解しており、それぞれに合った服薬支援を行っている。また、服薬によって症状の変化がないか状態観察を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力にあわせて、家事を手伝っていただいている。趣味等を伺い、カラオケや塗り絵、散歩等楽しんでいただけるように支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望に合わせ、近隣へのドライブや中庭の散歩ができるように支援している。	中庭への散歩は天気次第で毎日行っている。ドライブ先では、車から降りておやつを食べたり、飲み物を飲んだりして過ごしている。外出・外泊は家族の協力で行っており、2泊3日外泊する利用者もいる。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には入居者様が直接支払いをする事はないが、希望があればご家族と相談の上、財布などを持っていただくこともある。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い等、ご自身で書いていただけるよう支援している。 ご家族から電話があった時は取次いでいる。入居者様から電話の希望があれば可能な限り対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく家庭的な雰囲気をお大切に環境づくりを心掛けている。 また、季節を感じていただけるように、時期に合わせた飾りつけを行っている。	事業所玄関へは階段とスロープが用意されている。玄関から上がると建物内はバリアフリーの板敷きの床になっている。リビングは吹き抜けで、明るく広々とした空間となっている。リビングに接した畳敷きの和室にはソファが置いてあり、心地良く午睡できる場となっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは、自由に過ごしていただけるように環境整備を行っている。気の合う入居者様が会話を楽しめるように配席したり、リビングより花壇を眺められるように椅子を配置するなど工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具などの配置は自由で、ご自宅で使われていた好みの物など飾ったりしていただいている。ご自身で整理が困難な方は担当職員がお手伝いさせていただいている。	ベッド、エアコン、クローゼット、枕は予め事業所が用意している。自宅で使用していた馴染みの家具等を持ち込み、利用者がくつろげる空間となっている。居室には出窓があり、好きな花の鉢を並べたりして、部屋の雰囲気作りに役立っている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は入居者様にとって安心、安全に生活していただくよう環境整備を行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2／3くらいの		
				③利用者の1／3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
			○	③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛のある里」「笑顔のたえない里」「安らぎのある里」のホームの理念を、毎朝の申し送り時に読み上げ、理念の共有を図り、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加し、交流を図っています。又、敷地を移動販売の会場として使ってもらおう計画をしている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、認知症に関する研修の報告をすることで、ご家族や地域の方々に向けて発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、入居者状況や取り組みの報告を行い、そこで出たご意見などは、その後のサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市役所担当者にも参加いただき、当ホームの現状をお伝えしている。また、なにかあれば、都度問い合わせるようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部研修やスタッフミーティングなどで職員間で理解を深め、施錠を含めた身体拘束をしないケアに取り組んでいる。但し、防犯上の観点から、夜間に限って玄関の施錠を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する内部研修やスタッフミーティングで理解を深めるとともに、日々の入居者の状況をしっかりと観察し異変が見過ごされないように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて成年後見人制度などの権利擁護制度の理解を深めている。 ご家族などから要望があれば、それらを活用できるように支援している。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解除などの際にはご家族などに疑問や質問がないかを尋ね、それらに対してしっかりと納得していただけるように説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の意見や要望を運営推進会議などで、管理者や職員に表せるような機会を設けている。また外部機関の紹介を行っている。必要に応じてその後の対応に反映させている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員ミーティングを開催し、職員の意見や提案を聞く場を設けている。 また必要に応じてその後の対応に反映させている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の日々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境や条件の整備に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用の際、性別や年齢を理由に対象から排除していない。また、働いている職員に対しても、その能力を活かし社会参加や自己実現の権利が保証されるように配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修の中で、職員に対し人権教育や啓発活動に取り組んでいる。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修にて介護技術向上を図っている。 また、日々の業務の中で介助方法の指導を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、地域密着型事業所春日支部会に参加し、同業者との交流を図り、春日市全体のサービスの質の向上する取り組みを行っている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人から困っている事や要望などを聞き取り、ご本人が安心して過ごしていただくための関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族から困っている事や要望をきちんと聞けるように関係づくりに努めている。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族のニーズを的確に把握し、必要な支援を見極めるように努めている。またその可能性を踏まえ他のサービス利用も検討している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方的に介助する立場ではなく、しっかりと思いを傾聴し、寄り添い、ともに行動している。そうすることで一方通行にならぬよう気を配っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には日ごろから入居者様の状況をお伝えし、ご家族に協力していただけることを相談し、職員とともにご本人を支えていただくようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけでなく、知人・友人の面会等積極的に受け入れて、関係が途切れないように支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個人の性格を把握し、入居者様同士が関わりあえるよう職員が橋渡しとなり支援するよう努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じてご本人やご家族の経過をフォローし相談や支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各入居者様の担当職員を中心に、ご本人やご家族からの要望や意向をうかがえるよう努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面談を行い、それまでの生活歴や生活環境、これまでのサービス利用経過等を把握するよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルサインや排尿・排泄・食事・睡眠等のチェックはもとより、会話を通じて感情にも気を配り、心身の変化を見逃さないようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人のケアの課題やあり方等、ご本人・ご家族・担当者を交えて意見を出し合い、それらを反映させた介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践・結果、気づき等を個人記録に記載し、職員間で情報を共有するとともに、その後の実践や介護計画の見直しに活かすようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況やニーズに応じて、柔軟に支援できるように取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、ご本人が安全で豊かな生活ができるように支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医より月2回の往診を受けている。また、入居者様に体調の変化があればかかりつけ医に相談し、必要があれば受診を行っている。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日々の関りの中で入居者様の状況や変化を職場内の看護師に伝え、受診や看護の支援を行えるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院した際には、定期的にご本人の状態を確認し、退院に向け病院関係者と連絡を取るようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日ごろから入居者様の状態をご家族お知らせし、重度化した際、事業所でどこまでできるかをお伝えし、その後をどうするか話し合う場を設けている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員の資格を持つ職員を中心に、職員が緊急時に対応できるように研修を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練を行うことで、災害時入居者が避難できるようにしている。また地域と協力できるように公民館に連絡が取れるようにしている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりが人生の先輩であることを意識し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いをきちんと傾聴し、入居者様のペースに合わせてご本人が自己決定できるように働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースを尊重し、なるべくご本人の希望される過ごし方で穏やかに過ごしていただけるように支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や口腔ケア時に洗面台の鏡を見ながら整容していただいたり、必要に応じて職員が髪型を整えたりしている。入浴時は着替えを入居者様と一緒に選んだりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の状態にあわせ、食事のつぎ分けや調理補助、テーブル拭きお盆拭きなど手伝っていただいている。検食をする際は入居者様と相席にて一緒に食事をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を記録し入居者様の健康状態を把握したり、水分摂取の少ない方には個別に摂取していただくなど工夫している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様の能力に合わせた介助方法で口腔ケアを行っている。 必要に応じて、職員が磨き残しがないかの確認を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人のペースに合わせて排泄の声掛けや誘導を行っており、失禁を減らし、トイレでの排泄に努めている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、水分補給や日々の運動を促すとともに、ヨーグルト等整腸作用のある食べ物を提供している。 便秘時はかかりつけ医処方便秘薬の服用で対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	1人1人の状態に合わせて入浴介助を行っている。時間は午前・午後と希望にそって、なるべく入浴の時間を楽しんでいただけるよう配慮している。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活リズムを尊重し、それぞれの過ごし方で日中過ごしていただいている。夜間は安心して眠っていただけるよう、環境整備や支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が入居者様の服用している薬について理解しており、それぞれに合った服薬支援を行っている。また、服薬によって症状の変化がないか状態観察を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力にあわせて、家事を手伝っていただいている。趣味等を伺い、カラオケや塗り絵、散歩等楽しんでいただけるように支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望に合わせ、近隣へのドライブや中庭の散歩ができるように支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には入居者様が直接支払いをする事はないが、希望があればご家族と相談の上、財布などを持っていただくこともある。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い等、ご自身で書いていただけるよう支援している。 ご家族から電話があった時は取次いでいる。入居者様から電話の希望があれば可能な限り対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく家庭的な雰囲気大切に環境づくりを心掛けている。 また、季節を感じていただけるように、時期に合わせた飾りつけを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは、自由に過ごしていただけるように環境整備を行っている。気の合う入居様が会話を楽しめるように配席したり、リビングより花壇を眺められるように椅子を配置するなど工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具などの配置は自由で、ご自宅で使われていた好みの物など飾ったりしていただいている。ご自身で整理が困難な方は担当職員がお手伝いさせていただいている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は入居者様にとって安心、安全に生活していただくよう環境整備を行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
			○	③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		